

家庭内での事故防止について

2022年もあとわずかとなり、年末年始の準備に入る方も多いのではないのでしょうか。実家に帰省したり、子どもや孫が遊びに来る機会も増えると思いますが、普段子どものいない環境の家には子どもにとって危険な要因が多く存在しているものです。そこで、今月号では子どもの事故発生事例ランキングを掲載しますので、今一度ご注意いただき、火事や事故のない年末年始を過ごしましょう。

子どもの事故発生事例ランキング

- 1位 ころぶ・・・慣れない家の段差、濡れた床など【足元にも気配りを！】
- 2位 おちる・・・階段や窓、ベランダなど【子どもはとにかくのぼりたい！】
- 3位 たべる・・・タバコ、薬、電池など【手の届かないところに移動！】
- 4位 ひっかける・・・カーテンのひもなど【ひも付きの物は外すか届かない位置に！】
- 5位 ぶつかる・・・机やテーブルの角など【コーナーガード等でけがの防止を！】
- 6位 やけど・・・アイロン、ボイラー、やかんなど【子どもが近づかないように！】
- 7位 はさむ・・・窓、ドア、引き出しなど【危険な箇所は鍵をかける！】
- 8位 きる・・・包丁、カッター、カミソリなど【子どもが触れない場所に保管！】
- 9位 ささる・・・ペン、歯ブラシ、ヘアピンなど【整理整頓を心掛ける！】
- 10位 おぼれる・・・お風呂場、バケツなど【水深が浅くても溺れます！】

※瓦版についてご意見や取り上げてほしい内容のある方は消防までお願いします。

救急出場状況

(10月分)

一般負傷 2件(0人)
急病 14件(11人)

10月計 16件(11人)
累計 166件(142人)
※()内は搬送人員



地域とともに

コミュニティ・スクール情報
～占冠中学校～

教育委員会学校教育担当 56 - 2182

コロナ禍を乗り越えて

9月10日、「ぼくらの声は 村に共鳴する!!」のローガンのもと、第76回学校祭を開催しました。学校として感染防止対策等に配慮しながら、保護者の皆さまだけでなく、とまーの方や小学6年生、また来賓にも声をお掛けしての実施となりました。生徒は、作文発表や学年創作活動で、個々や学年で創意工夫を凝らしながら、主体的に活動しました。また、全校合唱では、合唱用の感染症対策を踏まえてマスクなしでの合唱にすることができ、生徒が心を一つに取り組み姿を披露することができました。



学校祭集合写真



ふるさと教育推進授業



占冠中学校訪問(アスペン)

10月には、ふるさと教育推進授業やCS議会の取り組みで、村の環境問題に向き合いました。北大の先生の講話や最終処分場の視察、議員の方とのグループワークを通して考えを深めました。さらに、村のホームステイ事業でアスペンの中学生を受け入れ、学校訪問では異文化交流として充実した時間を過ごすことができました。生徒にとって行事の続く忙しい時期となりましたが、貴重な経験の連続でもありました。その生徒の活動を支えている保護者の皆さま、そして地域の方々のご理解、ご協力に対して、感謝の念に堪えません。

今後、中学校の生徒数も減少し、来年度実施予定の合同運動会をはじめ、学校行事の課題について一つずつ解決していかなければならない時期が来ています。感染防止対策を継続しつつ、生徒が生き生きと活動できる学校づくりに取り組んでいきたいと考えています。

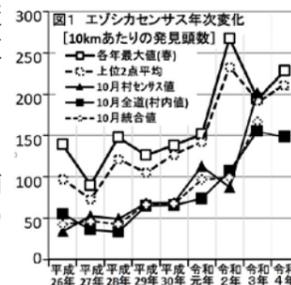
野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56 - 2174

エゾシカ

シカたちの繁殖期は概ね終わり、山は静かになってきました。地域によっては南へ、あるいは北からの季節移動もあるものとみられます。村内の生息密度の増減を調べた調査では、今期も高い数値が示されました(右図)。引き続き捕獲を進めていきます。

なお、10月の駆除捕獲は38頭、4月からの累計は340頭で、ともに昨年度並みです。



ヒグマ

今年の秋も、ミズナラのドングリが比較的に少ないことによる人里での行動の増加を懸念していましたが、11月中旬までのところ、村内では散発的な出現が見られるのみで、特段に心配な状況は見受けられていません。このまま静かに冬ごもりに入ってほしいところです。

昨年の秋に開始された酪農学園大学による電波追跡調査は、今年の8月に一旦終了した後、10月28日

に新たな個体の生け捕りに成功し、再び1年間の追跡に挑戦しています。今のところ字占冠の道道の北側の山林内におり、まずはいつどこで冬眠するのが注目されます。



麻酔下の調査個体への標識装着

占冠村猟区の入猟対応について

今期も10月からシカ猟希望者への対応を開始し、11月半ばまでに9回、合計13日間の利用がありました。村のガイドが毎回付いて行き、安全性を確認しつつ実施しております。

また、北海道による人材育成事業「エゾシカ捕獲実践研修」も2回、合計4日間開催し、道内各地の捕獲従事者7人が受講しました。今後も安全、安心な捕獲の普及に向けて取り組んでいきます。



研修事業によるシカ内臓検査実習

高病原性鳥インフルエンザについて

毎年のことですが、冬は要注意の季節です。病死が疑われる野鳥の死骸を発見した際は、お手を触れず、ご一報ください。

こちら駐在所です

占冠駐在所
56 - 2110

飲酒運転の根絶 ～乗るのなら しっかりお酒と ディスタンス～

飲酒運転は悪質な犯罪！

飲酒運転は、悪質、危険な犯罪です。飲酒は安全運転に必要な情報処理能力、注意力、判断能力を低下させ、運転に大きな影響を及ぼし、重大事故につながる可能性を高めます。皆さん一人一人が「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」ことを強く意識して、社会全体で飲酒運転を根絶する気運を醸成しましょう。

また、二日酔いでの運転も「飲酒運転」となります。飲酒した翌日に運転する場合は、身体にアルコールが残っていないかしっかり確認しましょう。

飲酒運転は、運転者以外も処罰の対象！

飲酒運転は、運転者だけでなく、運転者以外の人にも重い処罰があることを知っていますか。

車を運転する恐れのある人にお酒を提供したり、お酒を飲んでいる人に車を提供したり、飲酒運転の

車に同乗した場合は、飲酒運転と同様の処罰対象になります。

「ハンドルキーパー運動」で飲酒運転を防止！

ハンドルキーパー運動とは、仲間と車で飲食店に行く場合、あらかじめお酒を飲まない人(ハンドルキーパー)を決め、その人が仲間を送り届けることです。

お酒を提供するお店の方は、「お客さんが車で来店していないか」、「車で来店している場合は、ハンドルキーパーが誰なのか」を確認して、飲酒運転を防止しましょう。

飲酒運転情報の提供！

北海道警察では、悪質な飲酒運転を根絶するため、「飲酒運転ゼロボックス」によるタイムリーな飲酒運転の情報提供等や、飲酒運転根絶に向けたアイデアも受け付けていますのでご利用ください。